

在宅支援は地域作りから

住民共生日指す

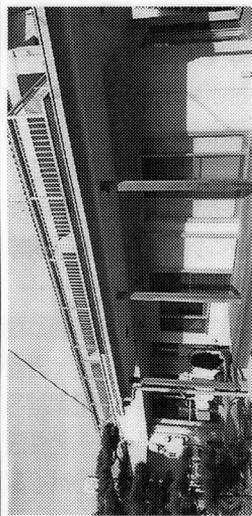


中島康晴代表

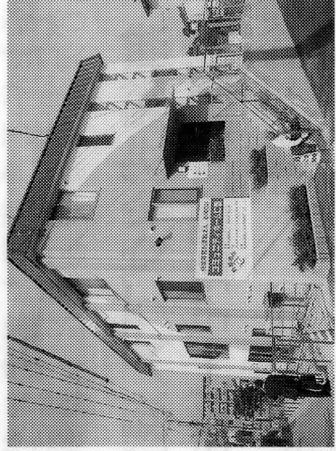
開設一年前から住民と関係作り
 —法人で取り組んできた地域ケアについて教えてください。
 「在宅支援を軸に事業展開をしています。その中でも住み慣れた地域に暮らし続けられるよう小規

模多機能を積極展開をしています。しかし在宅で介護を進めるには、介護サービス提供者と利用者の関係だけを深めるのでは、本来の生活支援にはなりません。利用者が一日のうちで介護サービスを受ける時間は、ごくわずか。介護サービスだけでは利用者の生活は成り立たないのです。法人の役割としては介護サービス提供時間外の利用者の生活を地域の中で支えているような地域作りをすることだと考えています」

NPO法人地域の絆(広島県福山市)は、小規模多機能を利用した住民巻き込み型の地域づくりを実践している。2006年の法人設立から4年。広島県内に小規模多機能3施設、GH1施設、来年4月に小規模多機能の開設が決まっている。それぞれの地域性に合わせた地域ケアの取り組みについて、中島康晴代表に話を聞いた。



◀「5」号施設の地域福祉センター



◀12月に開設したGH

町会と協働行事年3回以上開催

—具体的には。
 「県内に展開する小規模多機能3施設は、それぞれ地域性も人口もほぼ異なる地域に散って設けています。スタッフがその地域性に合わせてどのようなすれば地域を巻き込んだ施設運営やイベントが行えるかそれぞれ工夫をしています。地域との関わり方の第一歩として、施設開設1年前に自治会レベルで住民説明会を開きますが、その段階から地域福祉活動はスタートだと考えています。対話や交流を通して、法人の考え方や真剣度合いを伝え、また住民からもニーズを聞き取り施設に反映させます。具体的に施設の名前を募集したり、自治会の会議で使える喫茶スペースが欲しいということまで図面を書き直した例もあります」
 「また、年に最低3回は独自イベントを自治会と協働で開催します。夏祭りや餅つき、このほり祭りなど、自治会との日程調整や、必要な備品を

とまで把握しているのです」

—地域の中で、法人はどのように機能していると感じますか？

「当法人の取り組みは一部の住民からは厚く信頼され、また安心感をもたらすことができています。しかし、それは地域を一生懸命よくしたいと考えている、当法人と同じビジョンを持つ住民の反応です。地域に関心が低い住民にはなかなか響きませんし、協力を請うことも困難です。そういう方々とは、他の住民と協力して取り組みに巻き込むことで距離が縮められると確信しています」
 —今後の展望を聞かせてください。

「今後も小規模多機能を中心に、様々な地域性や人口の中に展開して、街づくりから地域福祉を浸透させたいと考えています。街づくりは10年かかると思っていますので、インフォーマルな地域資源を掘り起こし、住民同士が自然に繋がりがあえるような地域ケアを実践していきたいと思っております」

住民に頼んで借りながらイベントを主催して地域住民を招くのではなく、作るどころから一緒にに行きます。極端な話ですが、スタッフはどの家庭にどの軒があって、どの家庭に借りればいいのかというこ